


題材	1 ふしぎな世界 -鑑賞-			4月(2時間)
目標	想像の世界を表した絵に関心を持ち、形や色、配置等の観点から捉えたことをどうし結び付けながら見る。			
評価規準	(①知・技) かかっている対象の形や色、それらの組み合わせによる造形的な特徴を理解できる。 (②思・判・表) 形や色、配置等の観点どうしを結び付けながら作品のよさを捉える。 (③主体的態度) 想像の世界を表した絵を見ることに関心を持ち、進んで絵の世界を考えようとする。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○ダヴィンチ、ロスコ、ポロックなどの作品を見て、表されているものや気付いた色や形の特徴を基に絵に表された世界を話し合う。	○部分を詳しく見られるように、表されているものや不思議に思うところ等の観点を問いかける。	◇自分なりに捉えたことを学習プリントに書いたり、観点に基づいて自分なりに気付いたことや感じたことを発表したりしている。 <行動・学習プリント③>
ひろげる・あらかわす	1	○作品をグループごとに見て、捉えたことを結び付けながら、絵に表された世界を話し合う。 表されているものや不思議に思うところを書く活動を設定する。 理由とともに絵に表された世界について話し合う活動を設定する。 鑑賞を通して感じ取ったことを学習プリントに表し、発表し合う。	○見つけたものを手がかりにして、それぞれを結び付けながら考えられるようにするために、前時の学習をまとめた資料を提示する。	◇ 表されているものの様子から捉えたことどうしを結び付け、絵に表された世界の理由として発言している。 <行動・学習プリント①②③>
共通事項	想像の世界を表した絵を見たり、よさを話し合ったりする活動を通して、画面に表されたものや構図、配色等の造形的な特徴を捉え、自分のイメージをもつ。			
【備考】 ・本題材は、次題材「だれも知らない世界への旅」への導入も含んでいる。 ・準備物 提示する作品データはカリ管内に保存されている。 ※教科書5・6上…P8-11				



題材	2 だれも知らない世界への旅 -絵に表す-		4・5月(8時間)	
目標	吹き流しやマーブリング、スパッタリング等の表現技法を試し、それらの表現技法の生かし方や画面の構成を工夫して、自分が不思議な世界を旅している様子を絵に表す。			
評価規準	(①知・技) 描画用具や工作用具の扱い方を工夫して表している。 (②思・判・表) 写真や表現技法の効果的な活用した画面構成を考えている。 (③主体的態度) 空想の世界を表すことに興味をもって意欲的に表現しようとする。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	
であう	2	素材のよさを感じ取る活動 ○吹き流しやマーブリング、スパッタリングの技法を体験する。 画用紙に乗せた絵の具の水滴に、ストローで息を吹きつけて飛び散らせる。(吹き流し) 水に浮かべたインクの上に、画用紙を乗せて転写する。(マーブリング) 絵の具を付けた歯ブラシを網の上でこすることによって、絵	○表現技法の生かし方や画面の構成を工夫できるように、それぞれの技法体験に必要な用具を複数用意しておく。 	◇マーブリングやスパッタリング等様々な表現技法に興味をもち、試しの活動に取り組んでいる。 <行動・試しの活動の作品③>
	5	○誰も知らない不思議な世界へ旅立った自分を主人公にして空想の絵をかき ことを知る。 ○どんな世界に、どんな自分を旅立たせたら面白いか自由に思いを膨らませ、 アイデアスケッチに表す。 (「自分」の表現は写真を使い、他の部分は描画する。) 自由な思い付きを発表し合う。 学習プリントに思い付きをメモしたり、アイデアスケッチを表したりする。 参考資料を探す。 ○自分の写真を用意する。 家にあるものを持ってきたり、表現のイメージに合わせたポーズで教師に 撮ってもらったりする。	○発想から構想の流れがつかめるようにするために、いくつかの発想例を紹介する。 ○自由なイメージの広がりを促すため、参考資料の活用の仕方を例示する。	◇様々な表現技法を使う部分や画面全体のバランスを考えてアイデアスケッチにま めている。 <行動・学習プリント②>
・あ ら わ す	5	○絵の具のにじみやパスのぼかし、吹き流し、マーブリング、スパッタリン グ、擦り出し(絵の具のはじき飛ばし)、スタンプング、様々な材料の貼り 付け(コラージュ)等の表現技法の他、用紙の形を変える、穴を開ける、扉 を付ける等の、描写にとらわれない表現方法も試しながら自分の表し方を 決めて表す。	○描画用具や工作用具の扱い方を工夫して表すことができるよう に、技法や材料の表現への生かし方を例示したり、工夫してい る子どもの表現を紹介したりする。	◇表したい世界に合った表現技法の使い方を考え、絵の具の濃さを調節して表してい る。 <行動・学習プリント①>
ふ り か え る	1	○作品を見合い、発想の面白さや表し方の工夫を見付けて伝え合う。	○発想の楽しさや表し方の工夫に気付けるように、発想の面白さ や表現方法の工夫に気付いている子どものよさを賞賛し、他の 子どもを紹介する。	◇発想の面白さや使い方、表現技法の工夫に気づき、学習プリントに表している。 <行動・学習プリント③>
共通事項	様々な表現技法を生かして空想の世界をかき活動を通して、様々な表現技法のもつ形や色等の面白さ、特徴や特性等を捉え、自分のイメージをもつ。			
【備考】	・本題材の参考資料は、第1図工室にある。 ・準備物 自分の写真、4つ切り画用紙、絵の具セット、色鉛筆、クレパス、マーブリングセット、はさみ、のり、コラージュに使うもの ※教科書5・6下…P40・41			

題材	3 ねん土の板から -立体に表す-			6月(4時間)
目標	板状にした粘土の組合せを工夫し、用具等を適切に扱ったり、どべで丈夫に接着したりして成形し、つくりたい形を粘土でつくる。			
評価 規準	(①知・技)手や粘土べら、身近な材料の扱い方を工夫したり、どべを使って丈夫に接着したりしている。 (②思・判・表)板状にした粘土を生かして表すものを考えたり、組合せを工夫したりしている。 (③主体的態度)粘土の感触を味わいながら、進んで表現しようとする。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○たたら板と丸棒を使って粘土の板をつくる方法を知り、粘土を練ったり粘土の板をつくったりする。	○板粘土のつくり方や粘土の切り取り方が理解できるようにするために、たたら板や糸、切り針の使い方を演示する。	◇ たたら板と丸棒を使って粘土の板をつくる方法に興味をもち、板粘土をつくる活動に取り組んでいる。 <行動①>
あ ら わ す ・ ひ ろ げ る	2	○粘土の板から好きな形を切り取り、切り取った形を曲げたり、起こしたり、筒をつくったりして立体にして、いろいろな角度から見ながら、イメージしたものをつくる。 <次のようなことをして、イメージに近づけていく。> 立体にした形を切り針や型抜きで切り抜く。 へらや竹串、型押しで模様を付ける。 粘土をつまみ出したり、どべでくっつけたりして飾りを付ける。	○手や粘土べら、身近な材料の扱い方を工夫できるように、道具を活用した飾りの部分のつくりかたを具体的に演示したり、工夫している子どもの表現を紹介したりする。	◇ 自分なりの切り方や曲げ方、形の組合せ方を加えたり、イメージしたものの大まかな形に近づけたりしている。 <行動・作品②> ◇どべによる接着を行いながら、道具の使い方を工夫して細かい飾りをつくっている。 <行動・作品③>
ふ り か え る	1	○焼成した作品を見合い、楽しさや工夫を見付け合う。	○形や飾りのつくり方の工夫に気付けるように、板状の粘土を生かした表し方の工夫に気付いている子どもよさを賞賛する。	◇ 形や飾りの工夫について気付いたことを発表したり学習プリントに記述したりしている。 <行動・学習プリント③>
共通事項	土の塊を板状に伸ばしたりつなげたりする感覚や活動を通して、形や動き、質感等の感じを捉え、自分のイメージをもつ。			
【備 考】 ・乾燥は1週間以上行い、焼成は時間外に教師が行う。 ・作品の鑑賞は、焼成後、適宜、担任の時間等を活用して行う。 ・準備物 テラコッタ粘土(一人1kg)、粘土板、たたら板、丸棒、切り針、粘土べら、竹串、雑巾、どべ(土粘土を水でゆるく溶いたもの) ※教科書5・6下…P28・29, P60・61				



題材	4 AR フィールド - 造形遊びをする -		6・7月(4時間)
目標	AR空間に線をかき活動の中で線の並べ方や機器の動かし方などを基に奥行きに対する自己のイメージや思いを広げられることを楽しむことができる。		
評価 規準	(①知・技) AR空間に線をかき際の自分の感覚や行為を通して、奥行きの表し方や感じ方について理解するとともに、AR空間に線をかき際の線の並べ方や機器の動かし方を組み合わせて活動を工夫している。 (②思・判・表) 現実空間やAR空間の特徴を基に線の並べ方や機器の動かし方を試し、自己のイメージや思いをもって活動を考えている。 (③主体的態度) 様々な線の並べ方や機器の動かし方を試しながら学習活動を楽しもうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点 評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○線の並べ方や機器の動かし方から奥行きの表し方を考える。 学習のめあ 線の並べ方や機器の動かし方を工夫して面白い奥行きを考えよう	○様々な奥行きの表し方に気付けるよう、線の並べ方や機器の動かし方を試す時間を十分確保する。 ◇奥行きの表し方から感じたことについて発言している。 <発言③>
あらかわす・ひろげる	1 1	○線の並べ方や機器の動かし方を工夫して奥行きの表し方を考える。(本時) ○現実空間の特徴を基に線の並べ方や機器の動かし方を工夫し、自分なりの奥行きの表し方を考える。	○友達が撮影した動画から奥行きの表し方に対する線の並べ方や機器の動かし方に気付けるよう、撮影した動画を共有できる環境を設定する。 ○現実空間の特徴を基に線の並べ方や機器の動かし方を工夫したことを自覚できるよう、工夫して気付いたことや感じたことを振り返る機会を設定する。 ◇AR空間に線をかき際に線の並べ方や機器の動かし方を試している。 <行動①> ◇現実空間の特徴を基に線の並べ方や機器の動かし方などを試し、奥行きに対する自己のイメージや思いを発言している。 <発言②>
ふりかえる	1	○かいた線や撮影した動画を鑑賞する。	○表した奥行きのよさや面白さに気付けるよう、線の並べ方や機器の動かし方の視点を基に感じたことを伝え合う機会を設定する。 ◇線の並べ方や機器の動かし方の造形的な視点を基に奥行きのよさや面白さを友達に伝えたり、記述したりしている。 <発言・記述①②③>
【備考】 ・準備物 タブレット ※教科書5・6上…P54・55			

題材	5 板を切りぬいて -工作に表す-			
目標	板を輪状に切りぬいてできる様々な形や色の組合せを考え、電動糸鋸の扱い方を工夫して、つるすオブジェをつくる。			
評価 規準	(①知・技) 電動糸鋸を適切に扱って表し、形や色の組合せの面白さや、全体の構成の工夫に気付く。 (②思・判・表) オブジェのテーマを考え、板を切りぬいてできる形や色の組合せを工夫する。 (③主体的態度) 輪状に切りぬいた木片を組み合わせてできるオブジェづくりに関心を持ち、意欲的に表現しようとする。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であ う	2	○電動糸鋸で一枚の板を切ってきた複数の輪状の木片を組み合わせて、つるすオブジェをつくることを知る。 ○自分の表すことを決め、構成を考える。	○つくる方法やつくる活動に見通しをもてるよう、参考作品を提示する。 ○具体的な画面の構成ができるよう、紙で試しにつくる機会を設定する。	◇輪状に切りぬいてできた板を使って、つるすオブジェをつくる方法や、つくる活動に興味をもっている。<行動③> ◇輪状の木片の外側と内側の形や、木片同士の形に関連をもたせてつくっている。<行動②>
	5	○電動系のこぎりの扱い方を知り、板を切り分ける。	○安全に正しく扱えるよう、電動糸鋸を扱う際には、顔や指を近付けすぎないこと、板を両手で押しながら切ることなどを演示する。	◇電動糸鋸を安全に気を付けて正しく扱いながら、大まかに木取りの線に沿って切り取っている。<行動・作品①>
あら わす ・ひ ろげ る	4	○絵の具で彩色し、ニス塗る。 系とフックをつけて作品を完成させる。	○テーマに合うような色の組合せを考えられるよう、色から受ける感じや、色の組合せによる感じを整理する機会を設定する。	◇テーマに合うように色の組合せを決めている。<行動・作品②>
ふり か え る	1	○作品を鑑賞し、面白さや工夫について伝え合う。	○形の組合せ、色の組合せなどの面白さや工夫に気付けるように、図工室の壁や2階渡り廊下などに、作品を並べて展示できる環境を設定する。	◇形の組合せや色の塗り方の工夫について、学習プリントに記述している。<学習プリント③>

共通事項 電動系のこぎりで板を切り抜く活動を通して、板の形や切り抜いた空間の感じを捉え、自分のイメージをもつ。

【備考】


- ・準備物 シナ合板(30cm×45cm 厚さ5mm)、電動糸鋸、電動糸鋸の刃、紙やすり、ニス、絵の具セット、ビニル袋(切った木片を入れておく) 木工接着剤(速乾)、凧糸、フック(凧糸を束ねてつるすため)
- ・木片は紙やすりで磨く。 ・彫刻刀で彫ってもよい。 ・周りの余った木片をテーマに合った形に切り取り、貼り付けてもよい。
- ・色塗りとニス塗りは基本的に片面にする。

※教科書5・6上…P18・19, P62・63



図画工作科 5年

題材	6 ハリガネアーキテクチャ -立体に表す-			11・12月(8時間)
目標	針金の組み方や曲げ方を工夫して、建物の模型をつくる			
評価 規準	(①知・技) 針金とペンチの扱い方を正しく理解し、針金を、切る、曲げる、伸ばす、ねじるの基本的な使い分けができる。 (②思・判・表) 模型の構造に必要な針金の組み方と、自身のテーマに必要な針金の組み方を工夫して表している。 (③主体的態度) 建築物の構造に関心を持ち、意欲的に表現しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○針金を使って建築物の模型を作ることを知る。	○つくる活動に見通しがもてるよう、実際の建築物の構造がわかるスライドを提示する。	◇参考作品からイメージの広がりを発言している。<行動③>
	1	○つくりたい建築物のテーマを決め、構成を考える。	○構成のイメージが広がるよう、ユニット(部分)とユニットの組み合わせ(全体)の両方をかける学習プリントを用意する。	◇模型を支えるのに必要な構造と、自身のテーマを表すのに必要な構造をかけている。 <学習プリント②>
あらわす・ひろげる	4	○針金とペンチの扱い方を知り、針金で建築物の模型をつくる。	○ペンチを使い、テーマに合った針金の組み方ができるよう、基本的な使い方の他に、組み方を例示する。	◇針金を、切る、曲げる、伸ばす、ねじるの基本的な使い分けができる。 <行動・作品①>
	1	○自身のテーマに合うように作品を仕上げる。	○針金を使って自身のテーマを表せるように、「建てる場所」、「建てる目的」という視点を提示する。	◇模型の構造上必要な針金の組み方の他に、テーマを表すために必要な針金の組み方を工夫して表している。 <作品②>
ふりかえる	1	○作品を鑑賞し合い、工夫を見つけ合う。	○多くの作品の工夫に気付けるよう、複数の作品の工夫を書き込める鑑賞カードを用意する。	◇3つ以上の作品の工夫を鑑賞カードに記入している。 <学習プリント③>
共通事項	針金一つ一つの組み方と、それらを組み合わせた立体的な形から空間を捉え、自分のイメージをもつ。			
【備考】 ・準備物：針金(アルミ)、ラジオペンチ、持ち帰り用の袋 ・針金は、模型自体を支える太いもの(2mm)と、曲げやすく扱いやすい細いもの(2mm)を用意する。 ・時数的に、模型の大きさは、縦横高さそれぞれ、40cm程度以内が望ましい。 ※教科書5・6下…P26・27, P61				

題材	7 風 見える化大作戦 -造形遊び-			1月(6時間)
目標	風を感じる場所の特徴から、風を受けて動く仕組みを考え、場所に合った材料を使って活動する。			
評価規準	(①知・技) 風の向きや強さなどに合わせて、扱う材料や動く仕組みを工夫して表し、風の力を利用してできた表現の面白さや工夫に気付く。 (②思・判・表) 風を感じる場所の特徴を生かし、風を受けて動く仕組みや扱う材料、色などを考える。 (③主体的態度) 校内の風を感じる場所の特徴を生かした造形表現活動に、協力しながら楽しく取り組もうとする。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	2	○風を目に見えるようにする活動について知り、紙やスズランテープ、ビニル袋などを使って、校内の風を感じる場所を探す。	○学習の見通しをもつことができるよう、風によって動きをつくることできる紙やスズランテープ、ビニル袋などを紹介する。	◇ 風を目に見えるようにする活動に興味をもち、校内の風を感じる場所を探している。 <行動③>
あらかわす・ひろげる	1	○風を感じる場所を紹介し合い、活動したい場所ごとにグループをつくり、試したい材料や表し方を話し合ってイメージを共有する。	○風を可視化する具体的な方法を思い付くことができるよう、風を感じる場所に行き、紹介し合う活動を設定する。	◇それぞれの場所でできる表現を考え、イメージを共有している。 <行動・学習プリント①>
	2	○スズランテープや紙を結び付けるなど風を感じる場所でできる表現に取り組む。	○材料・用具を適切に扱いながら自分なりに工夫してつくれるよう、試作品をつくって風を感じる場所で風を可視化できるか試す活動を設定する。	◇ 風の向きや強さなどに合わせて、材料などを付ける数を変えながら表現している。 <行動・作品②>
ふりかえる	1	○表現を見合い、楽しさや工夫を見付け合う。	○発想の面白さや表し方の工夫、表現の巧みさなどに気付くことができるよう、各グループの表現を見合う活動を設定する。	◇ 風の力を利用してできた表現のおもしろさについて、発表したり、学習プリントに記述したりしている。 <行動・学習プリント①>
共通事項	材料(紙やすずらんテープ、ビニル袋など)を使って風に働きかける感覚や活動を通して、変化や動きの感じを捉え、自分のイメージをもつ。			
【備考】 ・材料を十分準備できるように、本題材に入る前に、子どもたちを集めておくよう連絡しておく。 ・準備物 針金、網、網、スズランテープ、折り紙、ビニル袋、等 ・交流及び共同学習に適している。 ※教科書5・6下…P42-45				
				

図画工作科 5年

題材	8 そっくりにつくろう -立体に表す・工作に表す-			2・3月(6時間)
目標	これまでに経験した材料, 用具, 表現技法を生かして, 自分で考えた表現方法で, ケーキやうどんなど自分のつくりたい食べ物をそっくりに表現する。			
評価規準	(①知・技) そっくりに表すための表し方に合わせて材料や用具を選び, 適切に扱って表し, 表現の工夫に気付く。 (②思・判・表) そっくりに表すための材料や用具, 表現方法を考え, 形や色の組合せを工夫する。 (③主体的態度) つくりたい食べ物をそっくりに表現することに進んで取り組もうとする。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○ケーキやうどんなどの食べ物をそっくりに表現する方法を知り, 自分が表現してみたい食べ物を考える。	○つくる方法やつくる活動に見通しをもてるよう, 参考作品を提示する。	◇紙粘土などの材料を使って, 食べ物をそっくりにつくる活動に興味をもっている。 <行動③>
あらわす・ひろげる	1	○自分の表現したいものに適した材料や用具, 表現技法を考えながら, アイデアスケッチをする。	○つくりたい食べ物に合わせて, 使う材料や表現方法を思い付くことができるよう, 完成作品をアイデアスケッチし, 必要な方法と材料を説明する学習プリントを用意する。	◇つくりたい食べ物に合わせて, 使う材料や表現方法を考えてアイデアスケッチに表している。 <行動・学習プリント②>
	4	○必要な材料や用具を準備し, 自分の計画に沿って表現する。	○つくりたいものに合わせて, 材料や用具を正しく扱えるように, 試しの活動を設定する。	◇アイデアスケッチを基に, つくりたい食べ物にそっくりになるような形や色を考え, 材料や用具を正しく扱いながら表現している。 <行動・作品①>
ふりかえる		○完成した作品を展示し, 作品発表会を開く。	○工夫された表現や工夫への気付くことができるよう, 互いの作品を見合う活動を設定する。	◇そっくりに表現するために工夫されている形や色の表現のよさに気づき, 学習プリントに記述している。 <行動・学習プリント①>
共通事項	つくりたい食べ物をそっくりに表現する活動を通して, 形や色の組み合わせによって表される表現のおもしろさや質感の感じなどを捉え, 自分のイメージをもつ。			
【備考】 ・これまでに学習している粘土の型押しや型抜きなどの表現技法や, 生活の中で経験したスライム作りや料理づくり, お菓子づくりなどを想起して, つくりたい食べ物の表現ができるようにするとよい。(これまで経験している主な表現技法……粘土の型押し, 型抜き, 絵の具のにじみ, ぼかし, スパッタリング, フィンガーペインティング, コラージュなど)(生活の中で経験している応用できそうな表現技法……スライム作り, 色水作り, 生クリーム絞りなど) ・参考作品は第1図工室にある。児童の作品の画像はカリ管にある。 ・準備物 軽量紙粘土, つくりたい食べ物の画像, 絵の具, 抜き型(ケーキ型, チョコレート型, ワッフル型), つまようじ, 割り箸, コーキングガン, 紙皿, 紙コップ, ストロー等 ・以下のようなものを子どもに紹介し, 自分で用意させるとよい 「生クリーム」生クリーム絞り用口とビニル袋(100円ショップ), シリコンシーラントの白(カインズ)等 「チョコレートソース」ガラス絵の具(茶)(黒)(100円ショップ), 「イチゴソース, ケチャップ」ガラス絵の具(赤)(100円ショップ) 「マヨネーズ, タルタルソース」ガラス絵の具(白)(100円ショップ), 「麺類」ところてん突き(100円ショップ)				